

報道関係者 各位

平成 29 年 12 月 26 日

【照会先】

健康局 結核感染症課

国際感染症対策室長

野田 博之(内線 2373)

課長補佐

繁本 憲文(内線 2926)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

世界保健機関（WHO）の要請を受け、12月26日から、 感染症診療の日本人専門家をバングラデシュに派遣します

厚生労働省は、このたび、平成 29 年 12 月 26 日から平成 30 年 1 月 15 日までの期間、感染症診療に関する日本人専門家をバングラデシュに派遣します。

ミャンマーのラカイン州北部の情勢を受けてバングラデシュに流入してきた避難民のキャンプでは、ジフテリア^{※1}が今年 11 月から流行しており、12 月 19 日までに 1,841 人の患者（うち 22 人が死亡）が発生しています。このため、国際協力の一環として、世界保健機関（WHO）からジフテリアの専門家の派遣要請を受け、ジフテリアが流行しているコックスバザールの避難民キャンプに対して、日本人専門家を派遣します。

今回の派遣では、東京都保健医療公社豊島病院感染症内科医長の足立拓也医師^{※2}を派遣することに決めました。平成 29 年 12 月 26 日から平成 30 年 1 月 15 日までの派遣期間とし、足立医師は現地の疾病発生や診療・対策状況などについて調査・評価を実施する予定です。

厚生労働省は、今後とも、開発途上国を含む諸外国に対して、専門家の持つ知識・経験・技術を生かし、医療面等での支援を行っていきます。

※1 ジフテリアはジフテリア菌により発生する疾病です。その発生が日本で最後に報告されたのは 1999 年です。現在では珍しくなりましたが、かつては年間 8 万人以上の患者が発生し、そのうち 10%程度が亡くなっていた重大な病気です。主に気道の分泌物によってうつり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、横隔膜（呼吸に必要な筋肉）などの麻痺、心不全などを来して、重篤になる場合や亡くなってしまふ場合があります。

※2 足立医師の過去の実績：2014 年～2016 年に西アフリカにおいてエボラ出血熱が流行した際に、エボラ出血熱対策に関する日本人専門家として 2 回派遣された経験があります。

【ジフテリアに関する詳細】

厚生労働省検疫所ホームページ

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name56.html>

ジフテリア(Diphtheria) 概要

基本情報

感染症法上の2類感染症

病原体 ・ジフテリア菌(*Corynebacterium diphtheriae*)による感染症。

感染経路 ・飛沫感染。

症状 ・潜伏期間は2-5日。

・初期症状は発熱・咽頭痛・嚥下痛など。悪化すると気道閉塞や心筋炎による突然死のリスクがある。

・致命率は5-10%。

発生状況 ・日本では予防接種を1948年に開始した事により、1945年の86,000例をピークに減少を続け、近年は報告がみられない。

・世界的にワクチン接種が進められている。

・2017年はベネズエラ、パキスタン、ハイチ、イエメン、バングラディッシュ、インドネシアで流行がみられた。

予防・治療

予防 : 単価ワクチン、2種混合、4種混合ワクチンがある(国内の接種率100%)。

抗菌薬 : ペニシリン、エリスロマイシンなど。

血清療法 : 乾燥ジフテリアウマ抗毒素。

バングラデシュの避難民キャンプでのジフテリアの流行

背景

- ・2017年8月25日以降、ミャンマーからバングラデシュへ60万人以上の避難民が流入し、以前からの避難民と合わせて90万人以上がバングラデシュ・コックスバザールの避難民キャンプに收容されていると言われている。

状況

- ・避難民キャンプでは、11月8日に国境なき医師団(Médecins Sans Frontières: MSF)の診療所から最初のジフテリアの疑い症例が報告され、その後、国際赤十字赤新月社連盟(International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies: IFRC)からも報告があり、11月26日には世界保健機構(WHO)が調査団を派遣。
- ・2017年12月19日までに1,841人のジフテリアの患者が報告され、うち22人が死亡した。
- ・報告例はすべて避難民で、症例の75%は15歳以下。
- ・現在、バングラデシュ保健省が保健分野のドナー関係者とともに、ジフテリアの急速な拡大に対応するための調整メカニズムを立ち上げ、対応中。



世界保健機構(WHO)の現地での対応

- ・15歳以下の子供へのワクチン投与の支援(12月12日より開始)。
- ・12月19日に、わが国が1,083万\$を拠出しているContingency Fund for Emergencies から150万\$の追加資金を拠出することを決定。
- ・ジフテリア抗毒素1,000バイアルの調達・提供を予定。(12月12日までに340バイアルが到着)

報道関係者 各位

平成 30 年 6 月 29 日

【照会先】

健康局 結核感染症課

国際感染症対策室長 野田 博之(内線 2373)

課長補佐 繁本 憲文(内線 2926)

(代表電話) 03(5253)1111

(直通電話) 03(3595)2257

ジフテリア^{※1}の流行が続くバングラデシュへ 感染症危機管理専門家(IDES)養成プログラムから初めて人材を派遣します

厚生労働省は、このたび、感染症危機管理専門家(I D E S : アイデス)^{※2}養成プログラムの一環として、2期生の井手一彦医師を、7月1日から約3か月間、バングラデシュに派遣します。

バングラデシュ南東部のコックスバザールに逃れてきた避難民のキャンプでは、ジフテリアの流行が続いています。このキャンプでは、2017年11月8日以降に7,083人の患者が報告され、うち42人が死亡しています(2018年6月17日時点)。このため、世界保健機関(WHO)では、医療や公衆衛生の対策強化を目指し、人的・物的支援を継続して行っています。

これらの状況を踏まえ、厚生労働省はWHOの協力の下、これまでの研修の成果を発揮し避難民キャンプでの疫学調査を含めた公衆衛生上の対応を支援するため、バングラデシュに井手医師を Global Outbreak Alert & Response Network (GOARN)^{※3}チームの一員として派遣することを決定しました。

厚生労働省は、今後も、開発途上国を含む諸外国に対して、知識・経験・技術を生かし、公衆衛生上の支援を行っていきます。

※1 ジフテリアは、ジフテリア菌により発生する疾病です。その発生が日本で最後に報告されたのは1999年です。日本では現在では珍しくなりましたが、かつては年間8万人以上の患者が発生し、そのうち10%程度が亡くなっていた重大な病気です。主に咳などによる飛沫感染であり、喉などに感染して毒素を放出します。この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで、横隔膜(呼吸に必要な筋肉)などの麻痺、心不全などを来たして、重篤になる場合や亡くなってしまう場合があります。

※2 I D E Sとは、Infectious Disease Emergency Specialistの略称で、IDES養成プログラムを修了した者です。厚労省では2014年、西アフリカで発生したエボラ出血熱の流行を踏まえて、感染症の危機管理に対応できる人材の養成を行うことを目的に、I D E S養成プログラムを2015年に開始しました。

<感染症危機管理専門家(IDES)養成プログラム>

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/ides/index.html

※3 地球規模感染症に対する警戒と対応ネットワーク(Global Outbreak Alert and Response Network: GOARN)は、感染症の流行に対応するため、2000年にWHOが構築したネットワークです。

■ 井手一彦医師 略歴

2002年、熊本大学医学部卒業後、同大学血液・膠原病内科及び感染免疫診療部に所属し、臨床医として勤務。2011年に医学博士号を取得。2016年に、IDESの2期生に選抜され、2017年5月より1年間、WHOジュネーブ本部の健康危機部門で感染症アウトブレイク対応に携わる。

■ ジフテリア (Diphtheria) 概要

ジフテリア(Diphtheria) 概要

基本情報

感染症法上の2類感染症

病原体 ・ジフテリア菌(*Corynebacterium diphtheriae*)による感染症。ジフテリアトキシンを産生する。

感染経路 ・飛沫感染。

症状 ・潜伏期間は2-5日。

・初期症状は発熱・咽頭痛・嚥下痛など。咽頭などに厚く剥がれにくい白い偽膜を形成する。喉頭に病変が及ぶと嚔声、犬吠様咳嗽を呈する。気道にも偽膜が形成されることがあり、気道閉塞から窒息のリスクがある。また、心筋炎を来すことがあり、突然死のリスクがある。

・致命率は5-10%。

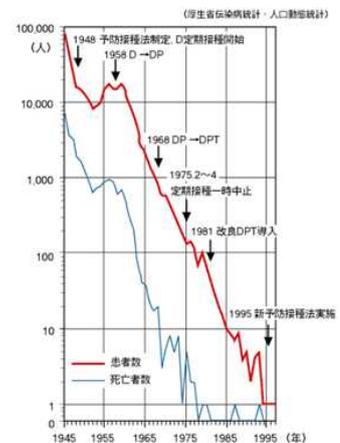
発生状況 ・1945年には86,000例が報告されたが、近年報告がみられない。

・世界的にワクチン接種が進められている。

・ソ連崩壊後、1990-1995年に旧ソ連圏で流行がみられた。このことから、ワクチン接種率低下により再び流行する可能性があるとし唆されている。

・2017年はベネズエラ、パキスタン、ハイチ、イエメン、バングラディシュ、インドネシアで流行がみられる。

わが国におけるジフテリア
届出患者数および死亡者数
(1945-1997年)



予防・治療

予防 ・単価ワクチン、2種混合、4種混合ワクチンがある。

血清療法 ・乾燥ジフテリアウマ抗毒素が使用できる(国家備蓄されている)。

抗菌薬 ・ペニシリン、エリスロマイシンなど。

バングラデシュのジフテリア対策

2017/12/26 – 2018/01/15派遣

- 2017年8月以降、ミャンマーから多数の難民が越境
12月時点で80～90万人
- 難民キャンプでコレラ、麻疹、ジフテリアが発生
- 国連機関、国際NGO、国内NGOが現地に多数集結
- GOARN派遣によりWHO現地対策本部に合流
- 症例定義・報告書式の整理 → 真の流行曲線の把握
- 診療手順、抗毒素投与手順、感染対策指針、
病床数確保、抗毒素在庫確保、医療従事者研修
- 接触者追跡（濃厚接触者に対する予防的治療）
- 集団予防接種（難民、地元住民、人道支援者）

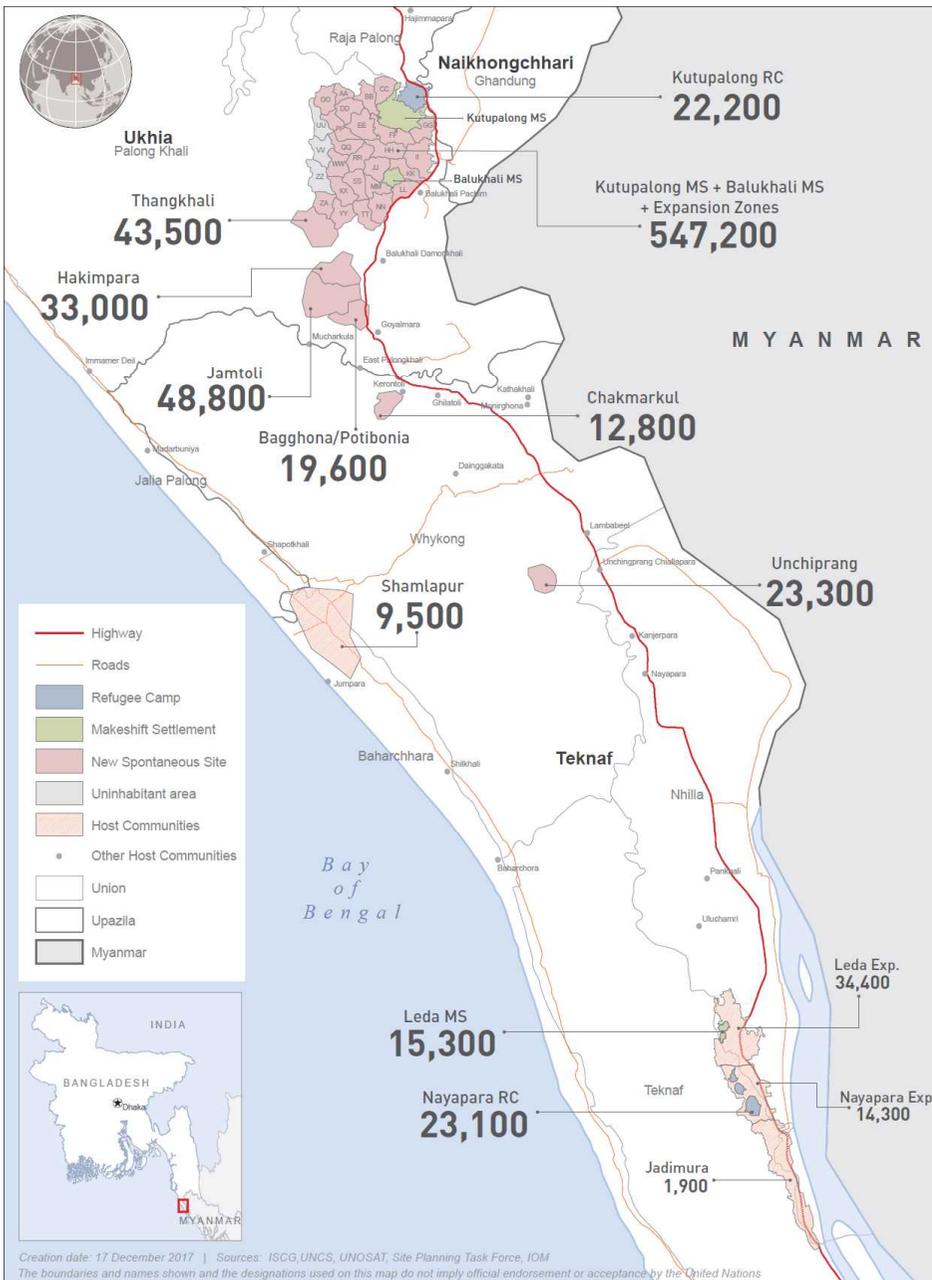
難民キャンプ

(2017年12月)

医療施設

BANGLADESH: Cox's Bazar refugee population as of 17 Dec 2017

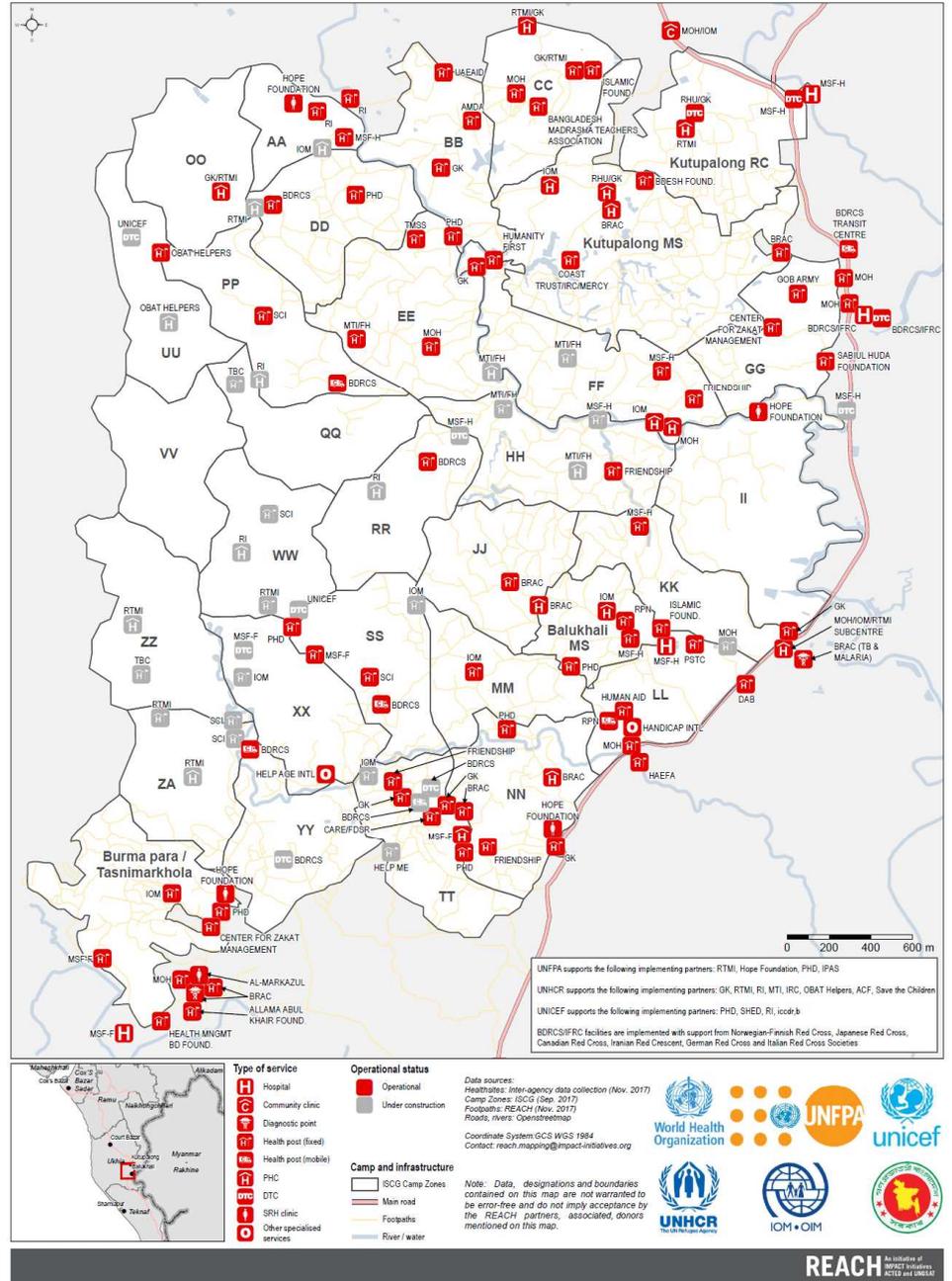
ISCG INTER SECTOR COORDINATION GROUP



Creation date: 17 December 2017 | Sources: ISCG, UNCS, UNOSAT, Site Planning Task Force, IOM
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations

BANGLADESH - Kutupalong extension site
Health service facilities (as of 12 December 2017)

For humanitarian use only
Production date : 13 December 1997



Data sources: Healthsites: Inter-agency data collection (Nov. 2017)
Camp Zones: ISCG (Sep. 2017)
Footpaths: REACH (Nov. 2017)
Roads, rivers: Openstreetmap

Coordinate System: GCS WGS 1984
Contact: reach.mapping@impact-initiatives.org

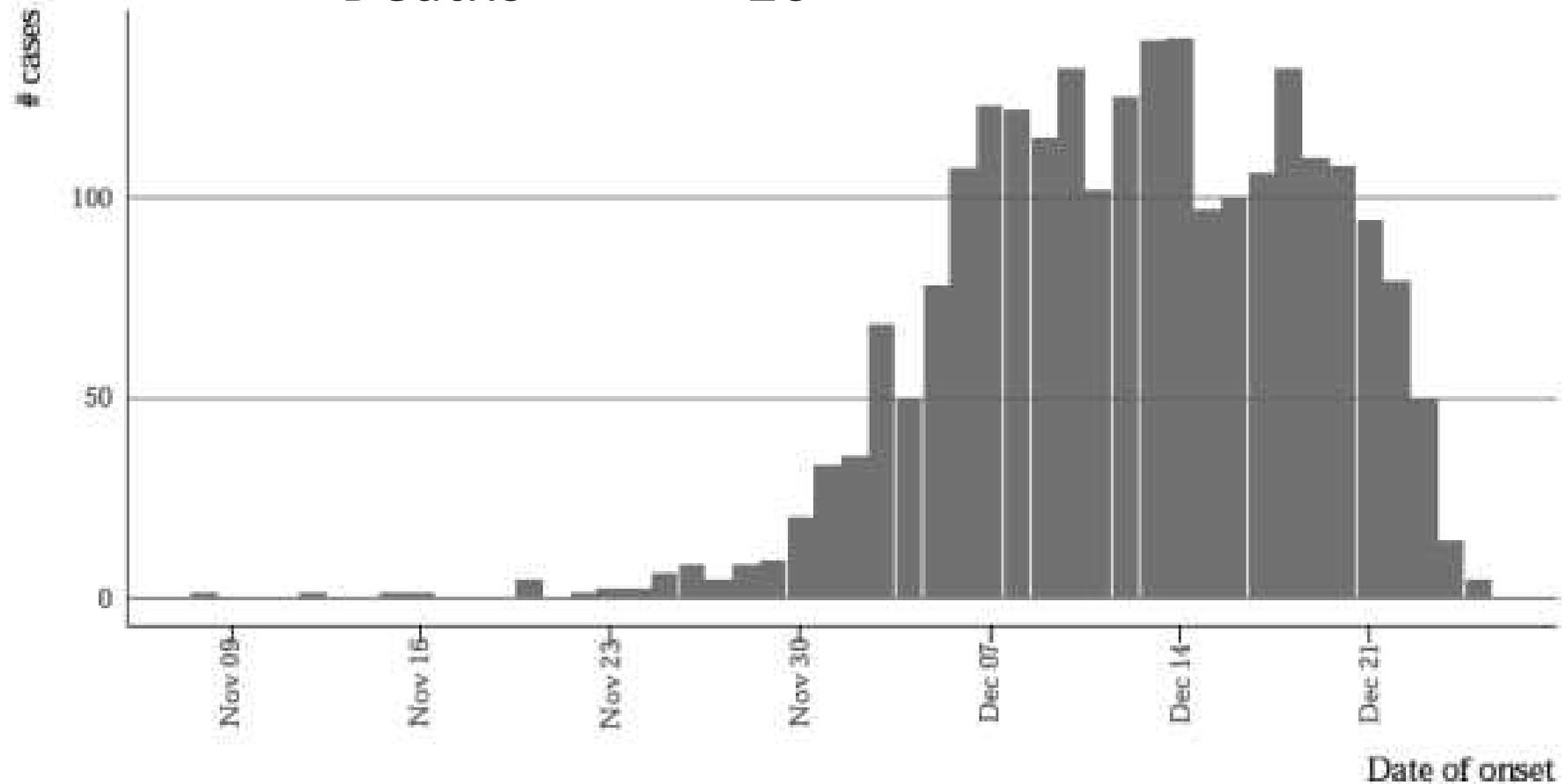
Note: Data, designations and boundaries contained on this map are not warranted to be error-free and do not imply acceptance by the REACH partners, associated donors mentioned on this map.

Logos: World Health Organization, UNFPA, unicef, UNHCR, IOM • OIM, REACH (An initiative of UNHCR partners ACTED and UNISRA)

2017年12月25日現在の流行曲線

Cases 2,440

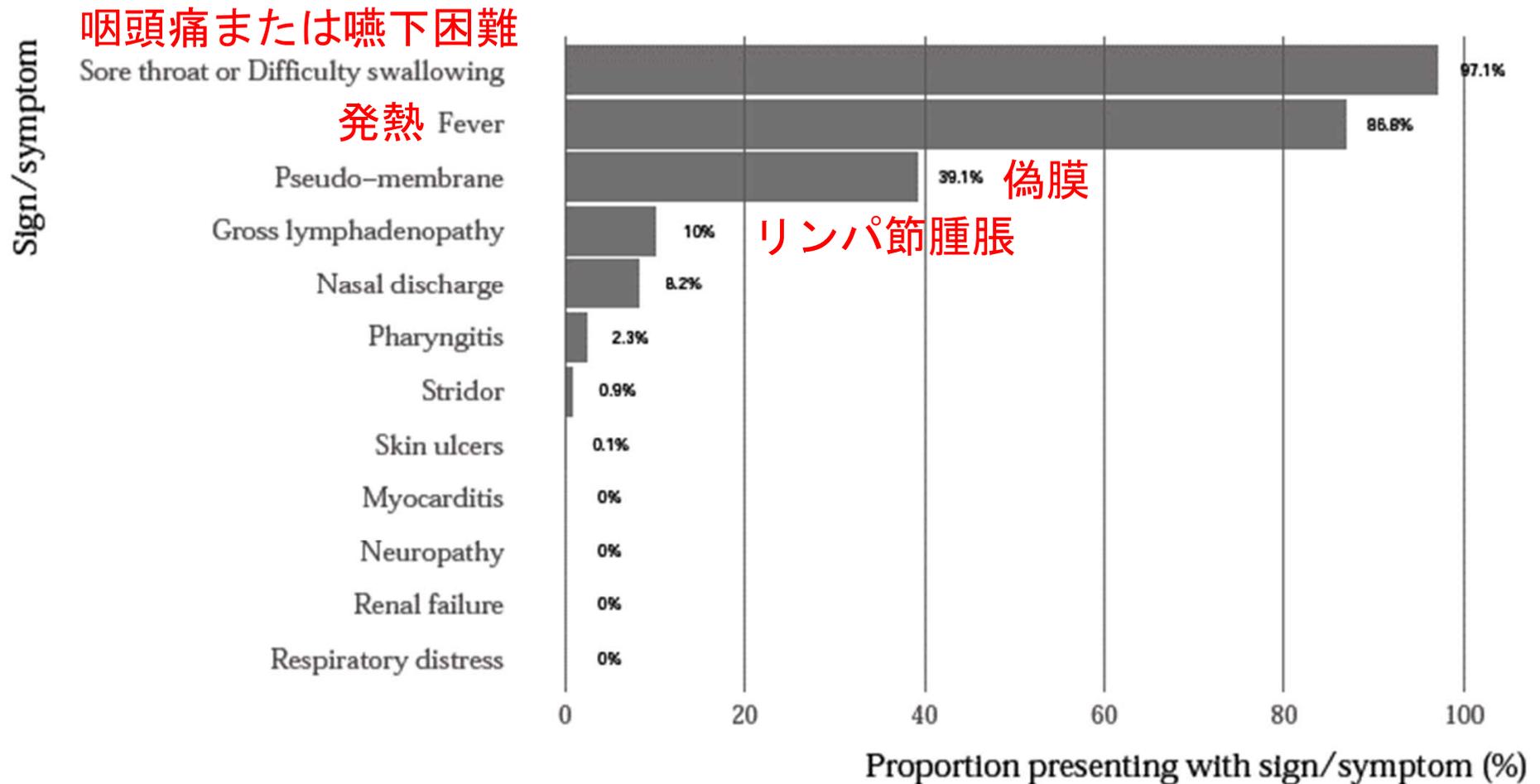
Deaths 26



Diphtheria outbreak, Cox's Bazar, Bangladesh. Daily epidemiological bulletin, 2017-12-26

症例定義（Probable case）：

喉頭炎・咽頭炎・扁桃炎の症状があり、扁桃・咽頭・鼻腔に偽膜がみられる、あるいは粗大な頸部リンパ節腫脹がある



2018年1月17日現在の流行曲線

Figure 1 Epidemic curve of diphtheria cases in Cox's Bazar, by date of admission (W44 2017 - W3 2018)

